

出光佐三氏・出光商会(門司)のあゆみ①

— 明治～大正 —

出光商会

(百田尚樹「海賊とよばれた男」
[上]より)

本店看板

門司で旗揚げした理由：は、門司が今後急速に発展していく都市と睨んだからだ。筑豊炭田を後背に控え、八幡に官営の製鉄所ができた北九州工業地帯はこれからどんどん大きくなっていく。それに中国大陸への玄関先としてもさらに重要な町になる。もちろん門司が故郷の宗像に近いというのも大きかった。

1911(明治44)年 出光商会を創設(東本町一丁目)

開業当初、機械油(潤滑油)を販売しました。駅から汽車に乗り、北九州筑豊の炭鉱を回りましたが、ほとんど成果が上がりませんでした。

1913(大正2)年 漁船用燃料油の販売を開始 本店を移転(東本町二丁目) 甲宗八幡下倉庫を設置

灯油より安価な軽油に着目し、一帯の発動機船の大部分に燃料油を供給するようになりました。「下関への供給は販売区域超えだ」という非難もありましたが、「船上売買の海上には、境界はない」と反論、これ以降、「海賊」と呼ばれるようになりました。

1914(大正3)年 (第1次世界大戦) 1915(大正4)年 大戦により石油価格高騰

出光商会は石油不足を予測し、あらかじめ大量に製品を買い入れ、得意先へは安く石油製品を提供し続け、絶大な信頼を獲得しました。

1916(大正5)年 中国・大連出張所を開設 1918(大正7)年 満鉄が出光の車軸油を全面採用

耐寒(不凍)性能に優れた出光製車軸油に変更され、頻発していた貨車焼損事故は一掃されました。



満鉄の車両

創業当時の門司港

出光佐三氏・出光商会(門司)のあゆみ②

— 大正～昭和 —

- 1919(大正8)年 中国・青島に支店を開設
- 1920(大正9)年 朝鮮・京城(ソウル)出張所を開設
- 1922(大正11)年 二十三銀行ビル(西本町)2階に再移転
台湾・台北と基隆に支店を開設
- 1923(大正12)年 計量器付配給船を開発・中身給油開始



海上給油船

それまでは船上では油の入った二斗缶ごと販売していた。一斗缶も安価ではなく、いちいち缶に入れて船で運ぶ手間も効率が悪い。知り合いの造船所に木造の伝馬船を発注し、そこに鉄製のタンクと計量器を備え付けた即席の給油船を作り上げた。

(百田尚樹「海賊とよばれた男」
[上]より)

1924(大正13)年 二十三銀行による救済融資

戦後の反動恐慌、震災恐慌などと続く不況で廃業の危機でしたが、二十三銀行頭取と支店長の「銀行家は立派な商人を援助することが使命です」という英断により、救済融資で乗りきりました。

1927(昭和2)年 満鉄より感謝状・銀杯を受ける

1931(昭和6)年 満州事変

1932(昭和7)年 門司商工会議所会頭に就任

1934(昭和9)年 門司みなと祭創設

1937(昭和12)年 貴族院議員に選任される

1939(昭和14)年 (第2次世界大戦)

1940(昭和15)年 東京に出光興産(株)設立/上海油槽所竣工

1945(昭和20)年 (終戦)

1947(昭和22)年 出光商会を出光興産(株)に合併



満鉄感謝状

出光佐三氏の詳しい足跡を、ぜひ現地で御体感ください

出光美術館(門司)

住所：北九州市門司区東港町 2-3 電話：093-332-0251
開館時間：午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日：毎週月曜日(祝日は閉館)、年末年始、展示入替期間
入館料：一般700円、高・大生500円、中学生以下無料(要保護者同伴)
併設の「創業史料室」のみ入館は高校生以上100円、中学生以下無料

門司港レトロへ行こう!

(北九州市ホームページ)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/san-kei/file_0064.html



海賊と

よばれた男

出光佐三の

起点 ZERO MILE

門司

発行：門司区役所総務企画課 電話(093) 331-2252